

所属・氏名（ 健康科学部 医療経営学科 氏名：田村 潤 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(著書) 医療白書: (2016-2017 年版)	共著	2016 年 7 月	日本医療企画	新しい地域医療への挑戦(総ページ数:244 頁) (監修: 西村周三、著者名: 澤憲明、田村潤ほか 20 名) 第 2 部第 3 章: 岡山大学メディカルセンター構想 と地域医療連携推進法人(6 頁)を担当
	医事業務:2024 年 2 月 1 日号	単著	2024 年 2 月 1 日	産労総合研究所	診療機能情報提供制度を用いた演習科目の導 入 ～医療機関の事務職に向けた教育への応 用～(総ページ数:4 頁
2	(学術論文) 地域医療計画における医療 連携体制の構築について ～神奈川県鎌倉市の例～	単著	2010 年 3 月	国際医療福祉大学 大学院医療福祉学 研究科:学位論文	論文の概要: 神奈川県鎌倉市を調査地域として 地域医療計画に示された連携体制と実態との相 違を検証したもの。二次医療圏の圏域設定と受 療行動が合致していないことや二次医療圏を超 える連携が行われ圏内に限定する理由に乏しい ことなどが判明し、二次医療圏域は単に人口や 既存行政圏との整合性から設定されるのではなく、 治療までの許容時間や住民の受療行動の考慮 が必要とまとめた。(総ページ数:87 頁)(著者 名: 田村潤)
3	(調査・報告) データ提出加算の適用拡大と 診療情報管理士の必要数に 関する考察	単著	2016 年 3 月	診療情報管理 第 27 巻 第 4 号 2016 年 3 月	報告の概要: 「データ提出加算」の義務化に伴う 診療情報管理士の必要配置数について推計を 行ない、全ての病院・有床診療所が届出を行う には 20,854 名の養成・認定が必要であること。充 足に 10 年ないしは 30 年程度を要し、単に養成 の拡充だけでなく、施設基準の緩和等も必要と 考察された。(総ページ数:4 ページ)(著者名: 田村潤)
4	(学会発表) 診療機能情報提供制度の教 育への応用について ～経営分析演習への導入に おける課題～	単独	2025 年 6 月	第 26 回日本医療マ ネジメント学会学術 総会	報告の概要: 診療機能情報提供制度を用いて経営分 析演習科目への応用を試みたもの。2024 年の同 学術総会発表の続編となるが、診療実績などの データを用いて病院の機能性を分析する方法を 学生が修得する事は、医療機関を管理運営でき る人材の育成に効果をもたらすものと考えられた 一方で、病床機能報告制度や病院情報の公表 はデータの正確性が検証されず、制度を維持す る上での課題と考えられた。経営分析の修得に あたり診療機能情報提供制度による演習の試行 は有効であるとの結論を得られたので、今後は 用語説明をどのように充実させるかなど、演習の 習熟性を高めたい。(発表者名: 田村潤)
5	(研究・報告) わが国における ICD-11 コー ディング導入に関する問題点 の抽出と解決及び先進国に おける疾病統計に係る情報分 析	共同	2021 年	厚生労働科学研費 補助金 政策科学 総合研究事業(統計 情報総合研究)(厚 生労働省、主任研 究者: 末永裕之)	報告全体の概要: 本研究はわが国への ICD-11 導入に際し、問題点の抽出とそれを解決しよ、普 及と啓発に資することにある。今年度は外科系・ 内科系のサマリー問題を作成し、ICD-10 と ICD-11 にてコーディングを行い評価し、本邦に 導入する際の問題点を整理した。(総ページ数: 88 頁) (分担研究者名: 須貝和則ほか 8 名、ICD-11 に 係る研究協力者: 田村潤ほか 125 名) 担当部分の概要: 外科系・内科系のサマリー問 題から ICD-10 と ICD-11 にてコーディングを行っ た。(担当ページ: P5～26)